



新居浜祭礼の御幸行列



新居浜
新居浜の
玉手箱

市史編さん室では、新居浜市に関係する古い資料を調べています。あなたのご自宅にも古い写真や文書などが眠っていませんか？ 皆さんの情報の情報をお待ちしています。

「新居浜市の歴史」には、江戸時代の太鼓台の登場について記されています。一宮神社に残る古文書によると、30年以上前に御幸（※1）の並び順が定められ、だんじりや御船だんじりが行列に加わっています。その頃、現在の川西地区を構成する、新居浜浦と金子村の御幸の順が交互となり、新居浜浦が先に御幸を行う年に、船御幸を行うことが決まりました。

200年ほど前に太鼓台が登場し、御幸に参加します。太鼓台は豪華な刺しゅう幕で飾られ、華美なものを禁じる藩の規制にかかわらず発展していきました。また各太鼓台が勢いを競い、太鼓の音と掛け声を響かせ、勇壮な祭りとして知られるようになります。

昭和初期の「郷土研究」によると、太鼓台は初日、一宮神社の例祭式に参列後、番号順に住友病院まで行列。2日目の神幸祭も一宮神社に集合後、高須（※2）から乗船する「船御幸」、新居神社前、女学校、久保田八幡前を巡り、夕方、神輿の宮入りに合わせて行列しています。

- ※1 祭礼行列のこと
- ※2 現在の大江海岸付近

「新居浜市の歴史」発売中

【発売場所】市史編さん室・市役所売店・あかがねミュージアム・マイントピア別子

▼市史編さん室（☎65-1567）



伊予新居浜祭礼船御幸（昭和初期）



例祭太鼓台行列の景（昭和初期）

広告欄